

所蔵作品展ギャラリートークはじめました

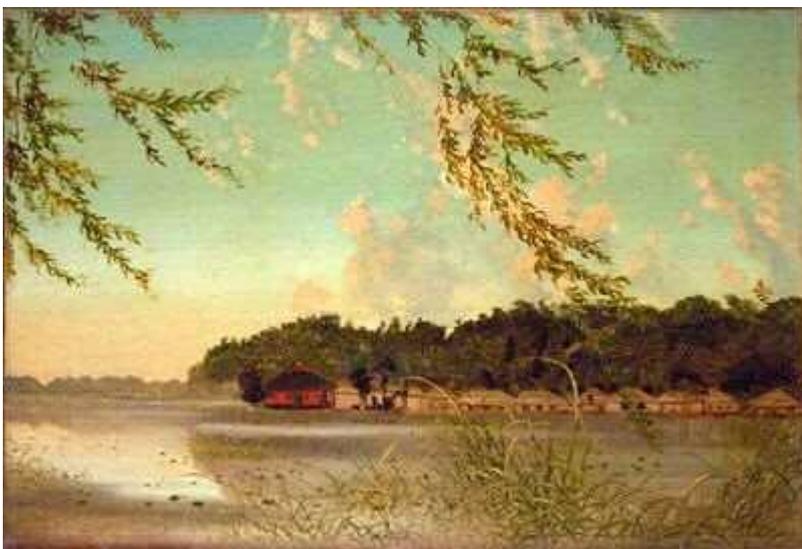
2008年11月21日

企画展ごとに開催している学芸員のギャラリー・トークを、所蔵作品展でもスタートしました。これまでも特集展示のおりや学校などの団体様向けにはよくやっているのですが、ふだんの美術館にももっと親しんでいただきたいとの願いからです。第1回は11月14日（金）の夜間開館時におこないました。

開催日時について、美術館友の会会員の皆さんへはお知らせできましたが、一般の方々への告知はHPの「イベント」→「その他のイベント」内でしたので、ほとんどお集まりいただけないのではと……。意外なことに（？）30人以上のお客様がおいでになり、感激とともに珍しくドキドキ。



今回はいくつか小道具を用意してみました。高橋由一の《不忍池》では私が上野で撮影した実景写真をご披露。無風状態の写真と比較すると、絵の上方では左から右に、下方では右から左に風を吹かせていることに気づかれます。



▲高橋由一 《不忍池》 油彩・画布、1880年頃



赤と緑の色の交響が美しい、小出檜重の《蔬菜静物》では、野菜や果物が黒塗りのテーブルに映った様子も見どころです。この作品図版の蔬菜本体に切り込みを入れて折り上げ、テーブルの縁や壁も折り曲げると、立体画像のできあがり。ミュージアム・ショップの絵葉書（70円）で作れますのでお試しあれ。



このほか、ファイニング一展に関連させての特集〈キュビズムとその周辺〉の部屋では、「さまざまな方向から見た物の形を、一つの平面上に重ねて描く」ということを感覚としてご理解いただこうと、8つの立方体が重なる〈四次元立方体〉の模型を透明シートで作ってみました。



初回としては、お客様と一緒に楽しい時間が過ごせたように思います。第2回は12月6日（土）午前10時30分からですが、担当学芸員が変わります。お話しする作品の選定や内容もガラリと変わるはずですので、そうした違いも含めてご来館の楽しみに加えていただければ、と思います。

(TM)

今日は、小学校4年生から中学生までを対象としたワークショップ「かさかさな絵を描こう」のご報告です。

「かさかさな絵を描こう!」

24日(土) 14:00から16:00 対象:小学校4年生から中学生 参加人数:19名

このプログラムでは、ワイエスの水彩画技法の1つであるドライブラッシュ(水気をしぼった筆で描く技法)に挑戦しました。水と絵の具を使ったワークショップは、初めての試みです。もちろん美術館内のロビーなどでは水の使用が絶対無理なので、今回の会場は、チケット売り場横のスペースを使用しました。



↑ 会場の様子。床に巻きダンボールを敷いたり、机やイスを出したりと、準備が結構大変でした。。。

初めに、ワークシートを使ってドライブラッシュの作品を鑑賞し、その後、作品を輪郭線で描いた《鉄兜》(松ぼっくり男爵習作)《ラスト・ナイト》《鷹の木》の3点から1点選んで、ドライブラッシュによる彩色をしていきました。



↑ 展示室では、対象のドライブラッシュ作品を3点鑑賞して이었습니다。

筆の水気をティッシュを使いながら取り除き（ちなみに、ワイエスはティッシュではなく親指と人差し指で水気を取り除いていたようです）、画面へと塗っていくのですが、どれだけ水を絞ればいいのか、絵の具と水の分量はどのくらいが丁度いいのか、その感触をつかむのが難しかったようです。



↑ 横に作品図版を置いて、ドライブラッシュに挑戦中

ドライブラッシュの指導は、「ワーキンググループ」の先生方でおこない、筆につける絵の具の量や、筆の走らせ方など、実演しつつアドバイスをされていました。



制作後に、再度展示室で、作品を鑑賞したのですが、その後の感想には、「暗いところと明るいところを分けて描いたほうがもっとよかったです」とか「ワイエスの作品は、葉っぱ1本1本でいねいに描いてありました。ぼくも、もっと細かいところに気をつけて描きたいです」といったことが書かれており、ドライブラッシュを体験したことによって、新たな視点で作品をみることができたのではないかと思います。

「かさかさな絵を描こう！」の制作物が、ワイエス展開催期間中ラウンジ（所蔵作品展入り口前）にて展示してあります。会場にお越しの際は、ぜひご覧ください。



↑ 作品は、パネルの裏表に展示してあります。

(RK)